

2024 年度

医療法人仁友会 日之出歯科真駒内診療所

『単独型歯科医師臨床研修プログラム』

日之出歯科真駒内診療所臨床研修管理委員会

目 次

1. プログラムの名称
2. プログラムの特色
3. プログラムの目標
4. 研修管理委員会の名称, 研修期間
5. 研修歯科医定員
6. 施設の概要
 - (1) 単独型臨床研修施設
7. プログラムの管理運営体制
 - (1) 研修管理委員会
 - (2) 研修管理委員会の運営
8. 研修指導體制
 - (1) 研修歯科医配置予定
 - 1) 病棟
 - 2) 外来
 - 3) その他
 - (2) オリエンテーション
 - (3) 臨床研修の到達目標および到達目標達成に必要な症例数
9. 教育に関する行事
10. 研修の修了判定項目および判定基準
11. プログラム修了の認定
12. プログラム終了後のコース
13. 研修歯科医の処遇
14. 研修歯科医の募集、採用方法

1. プログラムの名称

日之出歯科真駒内診療所単独型歯科医師臨床研修プログラム

2. プログラムの特色

日之出歯科真駒内診療所においては、単独型臨床研修施設として歯科医師臨床研修を実施し、臨床歯科医師として一通りの対応・処置ができるように、必要最小限の診療技術および知識を習得することが基本的な目標であるが、とくに全身疾患を有する有病者あるいは高齢者に対する入院管理下治療や全身麻酔をはじめとする各種管理下での治療や、訪問歯科診療あるいは救急歯科医療を通して、超高齢化社会と多様化する患者のニーズに十分対応できる歯科医師を養成することが特色である。

3. プログラムの目標

臨床歯科医師として最低限必要な知識、技能、態度の習得はもとより、将来の専門分野に向けてあるいは生涯研修の橋渡しとなるべく臨床研修を実施することが最終目標である。

4. 研修管理委員会の名称、研修期間

名称：日之出歯科真駒内診療所臨床研修管理委員会

研修期間：1年間（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

5. 研修歯科医定員

5名

6. 施設の概要

(1) 単独型臨床研修施設

施設名	医療法人仁友会 日之出歯科真駒内診療所
所在地	〒005 - 0016 札幌市南区真駒内南町4丁目6-9
開設者	医療法人仁友会
臨床研修施設長	小野智史（研修管理委員会委員長）
研修プログラム責任者	本間将一
事務部門の責任者	千葉宏樹

研修施設の概要

（外来診療時間）	9：00～18：00
（外来休診日）	日・祝日および年末年始
（救急外来）	365日24時間
（常勤職員数）	歯科医師 13名

歯科衛生士	38名
看護師	7名
歯科技工士	13名
歯科助手	4名
事務員	8名
医療情報部	1名

(診療設備) * 診療室 3室

- ・ 一般外来 (歯科診療台 27 台、外来小手術室 1 台)
- ・ 専門外来 (歯科診療台 4 台、口臭測定器、回復室 1 床、
麻酔モニターなど)
- ・ 特殊外来 (障がい者用診療台 7 台)

* 病棟 5 室 14 床

- ・ ナースステーション
- ・ 診察室・検査室 (血液、心電図、呼吸機能検査など)
- ・ 回復室 2 床
- ・ 当直室

* 中央手術室 2 室

- ・ 歯科治療用手術室 (歯科治療台 2 台)
- ・ 口腔外科用手術室
(全身麻酔器 2 器、麻酔モニター、人工呼吸器、除細動器、
血液ガス分析装置、BIS モニター、ファイバースコープ、
シリンジポンプ 3 台など)

* 技工室

- ・ 技工用キャビネット 9 台
- ・ ポーセレン室
- ・ レーザー溶接機

* レントゲン室 2 室

- ・ 歯科用レントゲン撮影装置 2 台
- ・ パノラマレントゲン撮影装置 3 台
- ・ 医科用移動型レントゲン撮影装置 1 台
- ・ 歯科用移動型レントゲン撮影装置 1 台
- ・ 3D-CT 撮影装置 1 台

* 予防指導室 1 室 (歯科診療台 4 台)

* その他の診療設備

- ・ 笑気吸入鎮静器 3 台

- ・ 血圧・心電図モニター 14 台
- ・ オートクレーブ滅菌器 3 台
- ・ EOG 滅菌器 1 台
- ・ 超音波洗浄器 1 台
- ・ 酸素吸入装置 5 台
- ・ 救急蘇生セット 3 台
- ・ 自動体外式除細動器 (AED) 2 台
- ・ 低周波治療器 2 台
- ・ 根管長測定器 10 台
- ・ 簡易培養器 2 台
- ・ 往診用ポータブルエンジン 2 台
- ・ 歯科用根管拡大装置 3 台
- ・ マイクロスコープ 1 台
- ・ 超音波診断装置 1 台

7. プログラムの管理運営体制

(1) 研修管理委員会

名 称	『日之出歯科真駒内診療所研修管理委員会』
委員長	小野智史 (院長・指導歯科医)
委 員	今渡隆成 (副院長・訪問診療部長・指導歯科医)
	本間将一 (診療部長・救急手術部長・指導歯科医)
	大岩大祐 (医長・指導歯科医)
	千葉宏樹 (事務長)
	小畑 真 (弁護士)・外部委員

(2) 研修管理委員会の運営

毎月 1 回委員会を開催し、研修の管理運営状態、研修歯科医師の研修状況の評価、必要に応じてプログラムの見直し、さらには研修修了後の処遇などについての検討を行う。

8. 研修指導体制

(1) 研修歯科医配置予定

1 年間を通じて、病棟、外来、その他にて指導歯科医の直接指導を中心として行う。

1) 病棟

- ・ 8:30~8:40 病棟カンファレンス
- ・ 随時 手術室見学、術前診察および検査、術後回診

2) 外来

- ・ 第1診療室；一般外来
- ・ 第3診療室；障がい者・有病高齢者外来、入院下歯科治療
- ・ 外来手術室
- ・ 検査室

3) その他、随時下記にて研修を行う

- ・ 技工室
- ・ レントゲン室
- ・ 救急外来
- ・ 病棟当直
- ・ 訪問診療
- ・ 老健施設

(2) オリエンテーション（研修記録簿①）

(1) 歯科医師としての基本的な心構えの確認

- ・ 歯科医師の使命
- ・ 良識ある社会人としての心構え
- ・ 挨拶、表情、身だしなみ

(2) 患者対応の基本姿勢について

(3) X線写真の撮影（デンタル、オルソパントモ、胸部X線写真、CT）

(4) 歯科材料の取り扱い（印象材、セメントなど）

(5) 歯科器具の取り扱い

(6) 消毒・滅菌法、院内感染マニュアルの理解

(3) 臨床研修の到達目標および到達目標達成に必要な症例数

臨床研修は、歯科医師が、歯科医師として的人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、歯科医学及び歯科医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。

A. 歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2. 歯科医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。
- ⑤ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

3. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。
- ④ 高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。

4. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。

- ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

5. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

6. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。
- ② 多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ③ 医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。

7. 社会における歯科医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

- ① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。
- ③ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ④ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点に対応する能力を身に付ける。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌等を含む。）を把握する。

C. 基本的診療業務<症例数の記載がないものは1症例以上経験する>

1. 基本的診療能力等

(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画

<研修内容：医療面接，診察，各種検査，診断，診療計画>

<症例数：①～⑥を一連として10症例>

① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。

<研修内容：初診・再診時医療面接，病歴聴取・記録>

② 全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。

<研修内容：口腔内診察，頭頸部診察を実施し，診察結果を解釈する>

③ 診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。

<研修内容：う蝕検査，歯周病検査，レントゲン検査の実施，解釈>

④ 病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。

<研修内容：病歴，診察，検査結果に基づき得られた情報から総合的に診断する>

⑤ 診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。

<研修内容：適切と思われる治療法及び別の選択肢を提示し，一口腔単位の治療計画を立案する>

⑥ 必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。

<研修内容：十分な説明による患者の自己決定権を確認する>

(2) 基本的臨床技能等

① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。

<研修内容：ブラッシング法，フッ素塗布，シーラント>

<症例数：10症例>

② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。

a. 歯の硬組織疾患

<研修内容：レジン修復，インレー修復>

<症例数：10症例>

b. 歯髄疾患

<研修内容：抜髄処置，感染根管処置>

<症例数：10症例>

c. 歯周病

<研修内容：スケーリング，SRP>

<症例数：10症例>

d. 口腔外科疾患

<研修内容：普通抜歯，膿瘍切開，縫合>

<症例数：10 症例>

e. 歯質と歯の欠損

<研修内容：歯冠補綴，ブリッジ，部分床義歯，全部床義歯>

<症例数：10 症例>

f. 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下

<研修内容：唾液腺マッサージ，舌の訓練，咀嚼訓練，嚥下訓練>

<症例数：2 症例>

③ 基本的な応急処置を実践する。

④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。

<研修内容：モニター監視（心電図，血圧，パルスオキシメータ，体温）>

<症例数：10 症例>

⑤ 診療に関する記録や文書（診療録、処方せん、歯科技工指示書等）を作成する。

<症例数：3 症例>

⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。

(3) 患者管理

① 歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。

<研修内容：全身疾患の特徴・注意点，服薬薬剤と歯科治療との関連性>

<症例数：10 症例>

② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。

<症例数：3 症例>

③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。

<研修内容：モニター監視（心電図，血圧，パルスオキシメータ，体温）>

<症例数：10 症例>

④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。

⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。

<研修内容：術前，術中，術後の管理上の問題点を把握，実践する>

<症例数：5 症例>

(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供

① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。

<研修内容：各ライフステージに応じた予防管理，口腔機能管理の実践>

<症例数：5 症例>

② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。

③ 在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。

<研修内容：直接指導歯科医の指導の元、訪問歯科診療を実践する>

<症例数：5 症例>

④ 障害を有する患者への対応を実践する。

<研修内容：直接指導歯科医の指導の元、障害者歯科診療を実践する>

<症例数：5 症例>

2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等

(1) 歯科専門職間の連携

① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。

② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。

③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。

(2) 多職種連携、地域医療

① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。

② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。

③ 在宅療養患者や介護施設等の入所者に対する介護関係職種が関わる多職種チームについて、チームの目的を理解し、参加する。

④ 訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係職種の役割を理解し、連携する。

⑤ 入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。

(3) 地域保健

① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。

② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。

③ 歯科健診を経験し、地域住民に対する健康教育を経験する。

(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解

① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。

③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

9. 教育に関する行事

* 臨床検討会

- ・ 毎週月曜 18:00～19:30
- ・ 症例検討会（外来症例、入院症例、管理症例）
- ・ 文献抄読会、輪読会

* 病棟カンファレンス

- ・ 毎週月曜 8:30～8:45
- ・ 全身管理症例および手術症例の提示および検討を行う。

* 輪読会

- ・ 毎週月曜 8:00～8:30
- ・ 歯学あるいは隣接医学に関する書物の輪読。

* 講演会

- ・ 年3回程度
- ・ 各科専門の医師・歯科医師を招いての講演。

* 研究会

- ・ 毎月22日 14:00～18:00
- ・ 臨床テーマに従って、患者に対して治療を行ったのちに評価、検討を行う。

10. 研修の修了判定項目および判定基準

修了判定を行う項目として、研修歯科医は歯科医師臨床研修記録簿（別紙参照）に研修内容を記載する。修了判定を行う基準は評価記録の項目の70%が3段階評価でB以上であることとし、毎月1回研修管理委員会を開催し、各研修歯科医師の研修状況および目標到達度についての評価を行う。さらに、目標到達度に応じて、研修歯科医毎に研修プログラムの見直しを随時行う。

11. プログラム修了の認定

1年間を通じた臨床研修の到達目標に関する症例数、指導歯科医の評価、及び研修歯科医に関わる関係者（看護師、歯科衛生士、歯科助手、歯科技工士、事務職員）の評価について総合的に判断し、各研修内容について習得したことが、研修管理委員会にて認められた者については研修修了証を授与する。

12. プログラム修了後のコース

日之出歯科真駒内診療所において、研修修了証を授与された者のうち、医療法人仁友会での勤務を希望する場合は院長に申し出る。

13. 研修歯科医の処遇

- ・ 常勤、非常勤の別： 常
- ・ 勤務時間： 基本的勤務時間 9：00～18：00（休暇：土，日，祝日）
- ・ 研修手当： ￥250,000 交通費は別途実費支給
- ・ 時間外勤務手当： 無
- ・ 当直手当： 無
- ・ 休 暇： 後期より年次有給休暇支給（10日）、年末年始休暇（12/30-1/3）
- ・ 研修歯科医の施設内の部屋： 有り（1室）
- ・ 研修歯科医の宿舎： 無
- ・ 社会保険、労働保険： 健康保険、厚生年金加入
労働者災害補償保険法の適応有り
雇用保険有り
- ・ 歯科医師賠償責任保険： 診療所において加入する（個人加入は任意）
- ・ 健康管理： 健康診断：年1回
- ・ 学会、研修会への参加：可能（参加費用の支給：無）
- ・ その他の福利厚生、各種行事、職員互助会の行事等は正職員と同等

14. 研修歯科医の募集、採用方法

歯科医師臨床研修マッチングプログラムに従い、以下の手順で行う

1. 研修歯科医の公募

2. 採用試験申し込みおよび必要書類の提出

必要書類：①履歴書 ②卒業（見込み）証明書

採用試験申し込み締め切り、採用試験実施日時等に関しては、ホームページ上に掲載する

3. 採用試験

面接にて行う

4. マッチング結果に従い、新年度研修歯科医採用

（資料請求先）

〒005 - 0016

札幌市南区真駒内南町4丁目6-9

日之出歯科真駒内診療所

歯科医師臨床研修事務局 千葉宏樹

Tel 011-584-5848 Fax 011-584-5844

E-mail：m-kensyu@hinodeshika.or.jp

URL：<https://h-dent.jp/h-makomanai/>